

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																														
国際ペット専門学校金沢		平成17年7月1日		関盛 圭子		〒924-0011 石川県白山市横江町土地区画整理事業施行地区内8街区1 (電話) 076-275-6873																														
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																														
学校法人国際ビジネス学院		平成16年12月1日		大聖寺谷 敏		〒910-0347 福井県坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-22 (電話) 0776-67-6093																														
分野	認定課程名	認定学科名			専任士	高度専任士																														
文化・教養	文化・教養専門課程	ペット総合学科 トリマーコース			平成17年文部科学省 告示第175号	-																														
学科の目的	本校は教育基本法及び学校教育法に則り、ペットビジネスに必要な専門的知識技能を習得させ、円満な人格と豊かな情操を養い、もって実社会に直ちに役立つ有為な人材を養成することを目的とする。																																			
認定年月日	平成26年3月31日																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																													
2	昼間	1700時間	660	30	1560		単位時間																													
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																															
160人の内数	100人の内数	0人	8人の内数	13人の内数	21人の内数																															
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 実技・筆記試験、授業態度等を総合的に評価																															
長期休み	■学年始:4月第1木曜日 ■夏季:7月下旬から8月下旬まで ■冬季:12月下旬から翌年1月上旬まで ■学年末:3月第1木曜日			卒業・進級条件	1700時間以上履修の者 進級条件なし																															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人・保護者面談			課外活動	■課外活動の種類 技能大会への参加 ボランティア活動 地域行事への参加 ■サークル活動: 有																															
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成31年度卒業生) トリミングサロン、ペットショップ			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等																															
	■就職指導内容 本人面談、模擬面接				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JKCTトリマーC級</td> <td>③</td> <td>29</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>NAVAトリマー1級</td> <td>③</td> <td>23</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>NAVAトリマー3級</td> <td>③</td> <td>60</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>家庭動物管理士3級</td> <td>③</td> <td>59</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>ペット・ケア・アドバイザー</td> <td>③</td> <td>59</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>NAVAトレーナー2級</td> <td>③</td> <td>59</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	JKCTトリマーC級	③	29	23	NAVAトリマー1級	③	23	22	NAVAトリマー3級	③	60	60	家庭動物管理士3級	③	59	43	ペット・ケア・アドバイザー	③	59	50	NAVAトレーナー2級	③	59	50
	資格・検定名	種別	受験者数		合格者数																															
	JKCTトリマーC級	③	29		23																															
	NAVAトリマー1級	③	23		22																															
	NAVAトリマー3級	③	60		60																															
家庭動物管理士3級	③	59	43																																	
ペット・ケア・アドバイザー	③	59	50																																	
NAVAトレーナー2級	③	59	50																																	
■卒業者数 57 人																																				
■就職希望者数 51 人																																				
■就職者数 51 人																																				
■就職率 : 100 %																																				
■卒業者に占める就職者の割合 : 89 %																																				
■その他																																				
(平成 31 年度卒業者にに関する 令和2年5月1日 時点の情報)																																				
中途退学の現状	■中途退学者 6 名			■中退率 5 %	平成31年4月1日時点において、在学者 118 名(平成30年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者 112 名(平成31年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、学業不振 ■中退防止・中退者支援のための取組 定期的な個人面談の実施、hyper-QUの実施。																															
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ①大学・短大等入学 入学金免除制度 ②兄弟姉妹 入学金免除制度 ③遠距離通学者支援奨学金制度 ④理事長奨学金制度 ⑤ひとり親奨学金制度 ⑥学び直し奨学金制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																			

第三者による 学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (帆床団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科の ホームページ URL	<p><a href="https://pet.kbg.ac.jp/">https://pet.kbg.ac.jp/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																													
国際ペット専門学校金沢		平成17年7月1日		関盛 圭子		〒921-8062 石川県金沢市新保本4丁目65番地16号 (電話) 076-249-8433																													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																													
学校法人国際ビジネス学院		平成16年12月1日		大聖寺谷 敏		〒910-0347 福井県坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-22 (電話) 0776-67-6093																													
分野	認定課程名	認定学科名				専任士	高度専任士																												
文化・教養	文化・教養専門課程	ペット総合学科 動物看護コース				平成17年文部科学省 告示第175号	-																												
学科の目的	本校は教育基本法及び学校教育法に則り、ペットビジネスに必要な専門的知識技能を習得させ、円満な人格と豊かな情操を養い、もって実社会に直ちに役立つ有為な人材を養成することを目的とする。																																		
認定年月日	平成26年3月31日																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2	昼間	1700時間	1440	—	840	—	—																												
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																													
160人の内数		95人の内数	0人	8人の内数	13人の内数	21人の内数																													
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 実技・筆記試験、授業態度等を総合的に評価																														
長期休み	■学年始:4月第1木曜日 ■夏季:7月下旬から8月下旬まで ■冬季:12月下旬から翌年1月上旬まで ■学年末:3月第1木曜日			卒業・進級条件	1700時間以上履修の者 進級条件なし																														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人・保護者面談			課外活動	■課外活動の種類 技能大会への参加 ボランティア活動 地域行事への参加 ■サークル活動: 有																														
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 動物病院			主な学修成果(資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>NAVATリママー3級</td> <td>③</td> <td>60</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>NAVATリママー2級</td> <td>③</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>ペット・ケア・アドバイザー</td> <td>③</td> <td>59</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>家庭動物管理士3級</td> <td>③</td> <td>59</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>NAVATトレーナー2級</td> <td>③</td> <td>59</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>認定動物看護師</td> <td>③</td> <td>19</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	NAVATリママー3級	③	60	60	NAVATリママー2級	③	6	6	ペット・ケア・アドバイザー	③	59	50	家庭動物管理士3級	③	59	43	NAVATトレーナー2級	③	59	50	認定動物看護師	③	19	16	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄		
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																
NAVATリママー3級	③	60	60																																
NAVATリママー2級	③	6	6																																
ペット・ケア・アドバイザー	③	59	50																																
家庭動物管理士3級	③	59	43																																
NAVATトレーナー2級	③	59	50																																
認定動物看護師	③	19	16																																
中途退学の現状	■中途退学者 6名 平成31年4月1日時点において、在学者 118名(平成30年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者 112名(平成31年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、学業不振			■中退率 5%																															
	■中退防止・中退者支援のための取組 定期的な個人面談の実施、hyper-QUの実施。																																		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ①大学・短大等入学 入学金免除制度 ②兄弟姉妹 入学金免除制度 ③遠距離通学者支援奨学金制度 ④理事長奨学金制度 ⑤ひとり親奨学金制度 ⑥学び直し奨学金制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																		

第三者による 学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (帆床団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科の ホームページ URL	<p><a href="https://pet.kbg.ac.jp/">https://pet.kbg.ac.jp/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																					
国際ペット専門学校金沢		平成17年7月1日	関盛 圭子		〒921-8062 石川県金沢市新保本4丁目65番地16号 (電話) 076-249-8433																					
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																					
学校法人国際ビジネス学院		平成16年12月1日	大聖寺谷 敏		〒910-0347 福井県坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-22 (電話) 0776-67-6093																					
分野	認定課程名	認定学科名			専任士	高度専任士																				
文化・教養	文化・教養専門課程	ペット総合学科 家庭犬トレーナーコース			平成17年文部科学省 告示第175号	-																				
学科の目的	本校は教育基本法及び学校教育法に則り、ペットビジネスに必要な専門的知識技能を習得させ、円満な人格と豊かな情操を養い、もって実社会に直ちに役立つ有為な人材を養成することを目的とする。																									
認定年月日	平成26年3月31日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																			
2年	昼間	1700時間	690	60	1200	—	—																			
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
160人の内数		75人の内数	0人	8人の内数	13人の内数	21人の内数																				
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 実技・筆記試験、授業態度等を総合的に評価																					
長期休み	■学年始:4月第1木曜日 ■夏季:7月下旬から8月下旬まで ■冬季:12月下旬から翌年1月上旬まで ■学年末:3月第1木曜日			卒業・進級条件	1700時間以上履修の者 進級条件なし																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人・保護者面談			課外活動	■課外活動の種類 技能大会への参加 ボランティア活動 地域行事への参加 ■サークル活動: 有																					
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) ペットショップ			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成31年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>NAVAトリマー3級</td> <td>③</td> <td>60</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>ペット・ケア・アドバイザー</td> <td>③</td> <td>59</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>家庭動物管理士3級</td> <td>③</td> <td>59</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>NAVAトレーナー2級</td> <td>③</td> <td>59</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>NAVAトレーナー1級</td> <td>③</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	NAVAトリマー3級	③	60	60	ペット・ケア・アドバイザー	③	59	50	家庭動物管理士3級	③	59	43	NAVAトレーナー2級	③	59	50	NAVAトレーナー1級	③
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																							
NAVAトリマー3級	③	60	60																							
ペット・ケア・アドバイザー	③	59	50																							
家庭動物管理士3級	③	59	43																							
NAVAトレーナー2級	③	59	50																							
NAVAトレーナー1級	③	5	5																							
■卒業業者数			57人	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																						
■就職希望者数			51人	■自由記述欄																						
■就職者数			51人																							
■就職率			100%																							
■卒業者に占める就職者の割合			89%																							
■その他																										
(平成31年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)																										
中途退学の現状	■中途退学者 6名 平成31年4月1日時点において、在学者 118名(平成30年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者 112名(平成31年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、学業不振			■中退率 5%																						
■中退防止・中退者支援のための取組 定期的な個人面談の実施、hyper-QUの実施。																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ①大学・短大等入学 入学金免除制度 ②兄弟姉妹 入学金免除制度 ③遠距離通学者支援奨学金制度 ④理事長奨学金制度 ⑤ひとり親奨学金制度 ⑥学び直し奨学金制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									

第三者による 学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (帆床団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科の ホームページ URL	<p><a href="https://pet.kbg.ac.jp/">https://pet.kbg.ac.jp/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

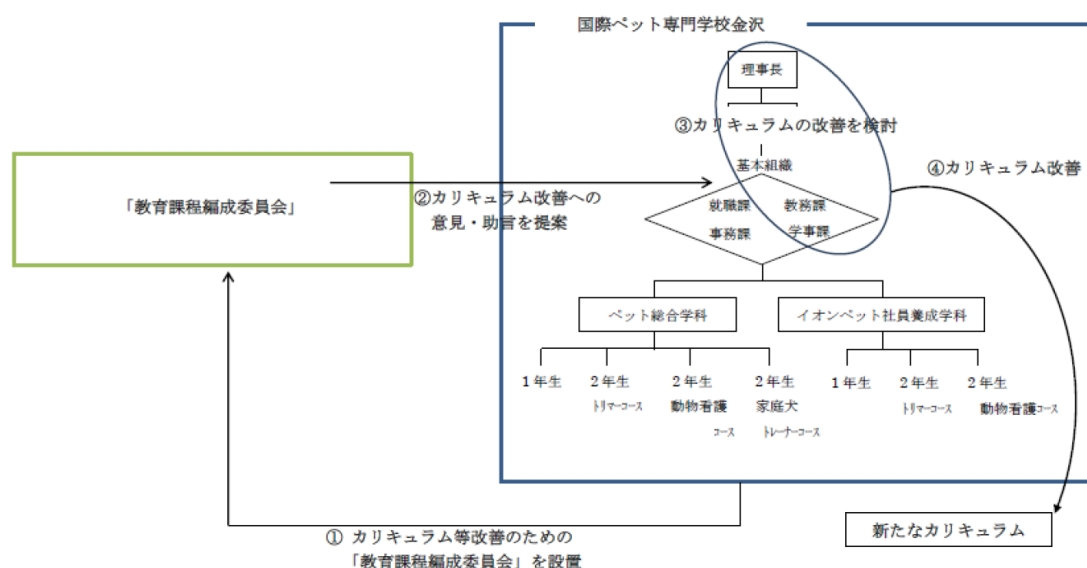
1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ペット業界が真に求める人材像及び最新の知識・技術を教育内容に反映するため、ペット関連企業、関係団体等との連携により、広く意見を取り入れカリキュラムの改善等の教育内容の改善を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

- ①カリキュラム等改善の為に「教育課程編成委員会」を設置
- ②「教育課程編成委員会」は、カリキュラム改善への意見・助言を提案
- ③提案に基づき、学内でカリキュラムの改善を検討
- ④カリキュラムの改善
- ⑤新たなカリキュラムの作成



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成〇年〇月〇日現在

名前	所属	任期	種別
田中 咲	イオンペット株式会社 本部長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	③
齋田 弘幸	イオンペット株式会社 本部長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
八木 幸隆	石川県獣医師連盟 委員長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	①
松本 亨	ペットショップwith GM	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	③
一山 善広	金沢市保健所 課長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	①
上田 政憲	国際ビジネス学院 顧問 (元加賀市教育委員会 委員長)	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	②
大聖寺谷 敏	学校法人国際ビジネス学院 理事長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	
近藤 昌朗	学校法人国際ビジネス学院 理事	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	
長尾 麻紀子	国際ペット専門学校金沢 教員	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	
加瀬 隼人	国際ペット専門学校金沢 教員	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	
藤田 恵理	国際ペット専門学校金沢 教員	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
勝嵐 圭史	国際ペット専門学校金沢 教員	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月・2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和元年5月30日 15:30～17:00

第2回 令和2年2月20日 15:30～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ・猫の飼育が増えている現状から、採用する側のペットショップとしては学生時代にも猫に触れる経験が欲しいという意見を受け、グルーミング・トリミング実習Ⅱにおいて、猫のシャンプーの機会を一部設けた。
- ・動物病院ではシニア犬の対応も増えている、という意見を受け、動物看護に関する授業科目において、シニア犬の知識を増やすことを今後の検討課題とする。
- ・トリミングライセンス合格に向けて、「犬の扱い方」「各作業工程の時間」を向上させる必要がある、という意見を受け、グルーミング・トリミング実習にて、扱い方・時間への意識付けを更に徹底する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

「専門産業の発展に貢献できる社会人の養成」を建学の精神とし、夢を追い続ける情熱を持ち、高い専門能力を社会で発揮できる人材を養成するため、「社会人力」の向上を図ることを基本方針とする。  
学校の建学の精神、教育理念、カリキュラムの構成、学生に対する教育方針のすべてを承諾し、これに基づき講義、指導をなし、もって本校の運営に協力するものとする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・連携企業の助言を踏まえ、カリキュラム、シラバスなど教育内容の構築を行い、実施する。
- ・連携企業は、即戦力人財養成教育の為に社員の派遣及び講師の紹介を行う。
- ・実習後、連携企業による評価を実施。



(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
グルーミング実習Ⅰ / トリミング実習Ⅰ	正しい動物のグルーミング方法、トリミング方法における基礎分野を業界の専門家指導のもと、スキル習得を目指す	イオンペット株式会社 ゴールデンエンゼル
グルーミング実習Ⅱ / トリミング実習Ⅱ	1年次に習得したグルーミングスキル・トリミングスキルにおいて、更なる正確性・時間短縮を目的として、また、ライセンス取得及び業界で即戦力となるため、専門家指導のもと技術向上を目指す	イオンペット株式会社 ゴールデンエンゼル
学外実習	産学共同企業に現場実習に入り、専門家指導のもと、実践的な技術習得・知識向上を図る。また、現場の雰囲気を感じると共に、現場スタッフとのコミュニケーション能力向上も目的とする。また、校内施設の犬舎で、犬の管理方法、お世話を学びながら、業界で必要な動物管理方法を学修する。担当管理者の下、実習を行う。	ペットショップwith プチマリア 手取フィッシュランド ワンコのコウノトリ など
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 企業等へ担当教員を定期的に派遣し、企業ごとの理念、求める人材像・スキル、学校教育との連動について研究し、該当学生に対して企業から派遣される講師と本校教員が合理的に指導できるよう逐一打ち合わせを行う。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャパンケネルクラブ公認トリマー教士兼審査委員にお越しいただき、トリマー教員を対象に、トリミング技術向上のための研修を実施(1日間)。ジャパンケネルクラブのライセンス取得に向け、トリミング実習における指導に役立てた。</li> <li>・北陸小動物臨床勉強会主催の勉強会に動物看護教員が参加(1日間)。呼吸器、眼科、消化器疾患、画像診断についての知識を学び、動物看護学・動物看護実習における指導に役立てた。</li> </ul>		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャパンケネルクラブ公認トリマー教士兼審査委員にお越しいただき、トリマー教員を対象に、実習における指導方法を修得する研修を実施(1日間)。</li> <li>・全教職員が参加する教務勉強会を実施し、授業での指導方法、クラス運営における指導力を向上させるための研修を行った。(年2回/春・夏)</li> </ul>		
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般社団法人日本動物専門学校協会が主催するタイムセービングトリミングセミナーに参加、今後主流となる時短トリミングの手技を学び、トリミング実習における指導に役立てる。(1日間)</li> <li>・日本動物病院協会が主催する学会に看護教員が参加し、業界の最新の知識・技術を学び、動物看護関連の講義・実習に役立てる。(1日間)</li> </ul>		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業が主催する、初年次教育セミナーに参加し、新入生への教育にの重要性について学び、学生指導に役立てる。(1日間)</li> <li>・全教職員が参加する教務勉強会を実施し、授業での指導方法、クラス運営における指導力を向上させるための研修を行う。(年2回/春・夏)</li> </ul>		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

企業等の「学校関係者」による意見交換等を通じて自己評価結果についての評価を行うとともに、教職員と共通理解を図り、自己評価結果の客観性・透明性を高め、今後の学校運営改善のための助言等を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が教育を行う理念が明確に定められているか</li> <li><input type="checkbox"/>理念は教職員・学生に周知されているか</li> <li>・学校が教育を行う目的・育成人材像などが明確に定められているか</li> <li>・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか</li> <li>・目的は、時代、業界、学生のニーズに対応しているか</li> <li>・目的・育成人材像は教職員・学生に周知されているか</li> <li>・目的は時代の変化に対応しその内容を適宜見直されているか</li> <li>・学校の将来構造を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の目的、目標に基づき学校運営方針は明確に定められているか</li> <li>・学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか</li> <li>・学校は事業計画に沿って運営されているか</li> <li>・意思決定システムは確立されているか</li> <li>・意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか</li> <li>・意思決定の階層・権限等は明確か</li> <li>・業務効率化を図る情報システム化がなされているか</li> <li>・学校運営方針はきちんと教職員に明示され伝わっているか</li> <li>・学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか</li> <li>・運営組織はあるか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに合致しているか</li> <li>・各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育機関を勘案して、到達することが可能なレベルとして明確に定められているか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科のカリキュラムは教育理念、目的達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか</li> <li>・カリキュラム内容について、業界など外部者の意見を反映しているか</li> <li>・カリキュラムを編成する体制は明確になっているか</li> <li>・学生による授業評価をしているか</li> <li>・授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか</li> <li>・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</li> <li>・目標とする資格はカリキュラム上で明確になっているか</li> <li>・目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</li> <li>・就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか</li> <li>・卒業生の社会的活動及び評価を把握しているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の就職・進学指導に関する体制は整備され有効に機能しているか</li> <li>・在校生に対し、卒業生を例として特筆すべきものを記述できるか</li> <li>・就職に関する説明会を実施しているか</li> <li>・就職に関する学生個別相談を実施しているか</li> <li>・就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか</li> <li>・学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され有効に機能しているか</li> <li>・奨学金制度が整備され有効に機能しているか</li> <li>・学費の分納制度等、学生を経済的に支援する制度が整備され有効に機能しているか</li> <li>・遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・定期的に健康診断を行うなどの学生の健康面への支援体制はあるか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制があり有効に機能しているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備され有効に機能しているか</li> <li>・学生相談室を開設しているか</li> <li>・スポーツ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され有効に機能しているか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・同窓会を含め、卒業生をフォローアップする体制が整備され有効に機能しているか</li> </ul>
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・施設・設備のメンテナンス体制が整備され有効に機能しているか</li> <li>・学外学習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・学外学習、インターンシップ、海外研修等についてその実績を把握し教育効果を確認しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備され有効に機能しているか</li> <li>・災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか</li> <li>・実習時等の事故防止の体制は十分か</li> <li>・万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか</li> <li>・防災訓練を実施しているか</li> <li>・学生の問題行動について対応できているか</li> </ul>
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は適正に行われているか</li> <li>・学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かりやすいものとなっているか</li> <li>・志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか</li> <li>・募集定員を満たす募集活動となっているか</li> <li>・学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか</li> <li>・入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか</li> <li>・入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか</li> <li>・学費は教育内容、学生および保護者の負担感を考慮し、妥当なものとなっているか</li> <li>・学費に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか</li> </ul>
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか</li> <li>・年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・予算は計画に従って妥当に執行されているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・会計監査を受ける側、実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか</li> <li>・私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか</li> <li>・私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか</li> </ul>
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志願者、学生や卒業生及び教職員等、学校が保有する個人情報に関しその保護のための対策がとられているか</li> <li>・個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか</li> <li>・法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか</li> <li>・法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めているか</li> <li>・自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか</li> <li>・自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか</li> <li>・自己点検・自己評価結果を公開しているか</li> <li>・自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか</li> </ul>
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のボランティア活動を奨励支援しているか</li> <li>・学生のボランティア活動の状況を把握しているか</li> <li>・広く教育機関、企業・団体及び地域との連携・交流を図っているか</li> <li>・学校の資源を活用し、生涯学習事業や附帯教育事業を行っているか</li> <li>・学校の施設・設備を開放するなど地域社会と連携しているか</li> <li>・重要な社会問題について学生や教職員に対し啓発活動を行っているか</li> </ul>
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学生の受入れ募集に関して、SNSによる幅広い情報発信が必要との意見を受け、新たにアカウントを開設し、情報更新の頻度も高めるよう取り組んでいく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
田中 咲	イオンペット株式会社 本部長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	企業等 委員
齋田 弘幸	イオンペット株式会社 本部長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	企業等 委員
八木 幸隆	石川県獣医師連盟 委員長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	業界団体 等委員
松本 亨	ペットショップwith GM	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	企業等 委員
一山 善広	金沢市保健所 課長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	業界団体 等委員
上田 政憲	学校法人国際ビジネス学院 顧問 (元加賀市教育委員会委員長)	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	教育機関 有識者
車 幸弘	石川県議会議員	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	保護者
中川 紗希	ワンワンサロン ONE PIN	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

公表年月日: 令和元年6月1日

URL: <https://pet.kbg.ac.jp/gakkoujouhou-kanazawa/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対する情報提供に関しては必要な情報の内容を精査し、それに応じた情報提供を行うとともに提供する情報が古いものにならないよう、定期的に更新するなど最新の情報提供に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<学校の概要>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所在地、連絡先等</li> <li>・学校の沿革・歴史</li> <li>・グループ校</li> <li>&lt;目標及び計画&gt;</li> <li>・学校の教育理念</li> </ul>
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員数、入学者数、在学生数</li> <li>・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等</li> <li>・資格取得、検定試験合格等の実績</li> </ul>
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員数(職名別)</li> </ul>
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職支援等への取組状況(企業等との連携による具体的な取組)</li> </ul>
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事への取組状況</li> <li>・課外活動(サークル活動、放課後活動、学生会活動)等の状況</li> </ul>
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生支援への取組状況</li> </ul>
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活用できる就学支援措置の内容等(授業料免除措置、奨学金等の案内等)</li> </ul>
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸借対照表、収支計算書</li> </ul>
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価・学校関係者評価の結果</li> <li>・評価結果を踏まえた改善方策</li> </ul>
(10)国際連携の状況	—
(11)その他	—
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3)情報提供方法	
URL:	<a href="https://pet.kbg.ac.jp/gakkoujouhou-kanazawa/">https://pet.kbg.ac.jp/gakkoujouhou-kanazawa/</a>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペット総合学科) 令和2年度 トリマーコース1年次														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			グルーミング実習Ⅰ	90分以内に爪切り、クリッピング作業、ブラッシング、耳掃除、シャンプー、ドライイング、肢周りカットを終われるような知識・技術を身につける	1・通	600			○	○		○	○	
○			グルーミング理論Ⅰ	犬の扱い方を理解し、各道具の使用法・注意点を把握することで、グルーミング実習時に安全でスムーズな作業が出来るようになる。	1・通	60	○			○		○		
○			家庭動物管理学	ペットショップで働くために必要な動物に関連している法規や健康管理などのケアについての専門的な知識や職業倫理、ペットを扱う専門家として必要な知識、社会における動物を取り扱う者の責任と役割を理解する。	1・前	30	○			○		○		
○			動物看護基礎学	動物の健康管理に必要な知識や技術（体のつくりや各疾患の知識、正しい飼育方法など）を実際の流れに沿って紹介し、実践的な内容も解説しながら学修する。	1・前	30	○			○		○		
○			犬のしつけ学基礎	動物行動学の分野において犬猫の行動様式の基礎知識（例：維持行動、性行動、社会的問題行動）をテキストに沿って学習し、習得する	1・前	30	○			○		○		
○			伴侶動物学	人との関わりが古くからある猫や、飼育が一般化しつつあるウサギやハムスターなどのエキゾチックアニマルと呼ばれる伴侶動物に関しても学ぶ。	1・前	60	○			○		○		
○			動物内科看護学	犬の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査・保定・採血・投薬・輸液などについて理解する。	1・前	30	○			○		○		
○			動物臨床栄養学	犬・猫の健康管理に必要な栄養の基礎知識を習得する	1・前	30	○			○		○		
○			繁殖学	犬猫における繁殖の基礎知識（例：雄雌性生殖器の構造の違い、発情の徴候や発情周期、遺伝学など）を学修し習得する。	1・前	30	○			○		○		
合計				科目	単位時間( 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペット総合学科) 令和2年度 トリマーコース1年次														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			犬学	犬種標準の概略を理解し、FCIで定められている犬種やJKCで決められている犬種を理解することで、各種の犬の扱いの違いを体得する。	1・前	60	○			○	○			
○			社会人基礎力	社会人としての心構え、考え方を身に付け仕事に対する価値観を醸成する。	1・前	30	○			○	○			
○			動物行動学	犬や猫の行動様式の基礎知識を学修し、動物の行動の基本原則や学習理論を通して行動に発展させるしくみ、成長に沿って学習行動の変化を理論的に理解する。	1・後	30	○			○			○	
○			看護基礎	トリマーに必要とされる基本的な動物の病気についての基礎知識や薬用シャンプーの基礎知識を学修し習得する	1・後	30	○			○	○			
○			ビジネス・コミュニケーションI	就職活動に向けて、必要な心構えや書類等の準備を重点的に行う。また自分自身を見つめなおし、将来を真剣に考える機会を設ける。	1・後	30	○			○	○			
○			接客ロールプレイング	受付の対応法を学習し、店舗でお客様に対応をできるようにする	1・後	30		○		○	○			
合計				科目	1110単位時間( 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	1 5 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペット総合学科) 令和2年度 トリマーコース2年次														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			トリミング実習	1年次で学んだコンパニオンアニマルをケアする際の専門器具の名称、使用方法、選定方法や犬の健康管理に加え多様化する犬種の保定方法や健康ケアの方法を学修する。	2・通	960			○	○		○	○	
○			猫学	猫の歴史、生態、習性を理解し、グルーミングや管理などを行う際に必要となる猫の扱い方を習得する。	2・前	30		○			○	○		
○			グルーミング理論Ⅱ	それぞれの犬種のスタンダードや理想の骨格構成をイラストや教科書を使用して学修する。	2・通	60		○			○	○		
○			ビジネス・コミュニケーションⅡ	1年次の学修内容を踏まえ、就職活動をスムーズに進めるために必要なルールやマナーについて習得する。また、社会人になるにあたって知っておくべき一般常識を理解し、社会人として活躍できる人財を目指す。	2・前	30		○			○	○		
○			ドッグエステ学	飼い主様とペットのためにペットエステを施術することの必要性やメリットを学び、ペットエステとはどんなものか飼い主様に伝えられるようにする。	2・後	30		○			○	○		
○			問題行動学	動物の行動特に犬や猫の行動の基本を理解し、問題となる行動はどのように起こるか、どのような対処をすれば良いのかを理論的に説明できることを学修する。	2・後	30		○			○	○		
合計				科目	1140単位時間( 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	1 5 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペット総合学科) 令和2年度 動物看護コース1年次														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			グルーミング実習Ⅰ	90分以内に爪切り、クリッピング作業、ブラッシング、耳掃除、シャンプー、ドライイング、肢周りカットを終われるような知識・技術を身につける	1・通	360			○	○		○	○	
○			グルーミング理論Ⅰ	犬の扱い方を理解し、各道具の使用法・注意点を把握することで、グルーミング実習時に安全でスムーズな作業が出来るようになる。	1・前	30	○				○	○		
○			家庭動物管理学	ペットショップで働くために必要な動物に関連している法規や健康管理などのケアについての専門的な知識や職業倫理、ペットを扱う専門家として必要な知識、社会における動物を取り扱う者の責任と役割を理解する。	1・前	30	○				○		○	
○			動物看護基礎学	動物の健康管理に必要な知識や技術（体のつくりや各疾患の知識、正しい飼育方法など）を実際の流れに沿って紹介し、実践的な内容も解説しながら学修する。	1・前	30	○				○			
○			犬のしつけ学基礎	動物行動学の分野において犬猫の行動様式の基礎知識（例：維持行動、性行動、社会的問題行動）をテキストに沿って学習し、習得する	1・前	30	○							○
○			伴侶動物学	人との関わりが古くからある猫や、飼育が一般化しつつあるウサギやハムスターなどのエキゾチックアニマルと呼ばれる伴侶動物に関しても学ぶ。	1・前	60	○				○			
○			動物内科看護学	犬の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査・保定・採血・投薬・輸液などについて理解する。	1・通	60	○			○	○			
○			動物臨床栄養学	犬・猫の健康管理に必要な栄養の基礎知識を習得する	1・通	60	○				○			
○			繁殖学	犬猫における繁殖の基礎知識（例：雄雌性生殖器の構造の違い、発情の徴候や発情周期、遺伝学など）を学修し習得する。	1・前	30	○				○			
合計				科目	単位時間( 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペット総合学科) 令和2年度 動物看護コース1年次														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			犬学	犬種標準の概略を理解し、FCIで定められている犬種やJKCで決められている犬種を理解することで、各種の犬の扱いの違いを体得する。	1・前	60	○			○		○		
○			社会人基礎力	社会人としての心構え、考え方を身に付け仕事に対する価値観を醸成する。	1・前	30	○			○		○		
○			動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化、その原因、発生機序、病態について学ぶ。	1・後	30	○			○			○	
○			動物形態機能学Ⅰ	動物の生命維持の仕組みを形態学・機能学・生化学の面から学び生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各段階で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する	1・後	120	○		○	○		○		
○			動物福祉・倫理	動物愛護や動物福祉、およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶ。獣医療、動物愛護、動物福祉、社会奉仕などの分野に動物看護師として貢献するうえで必要な基本理念としての動物福祉の考え方を学ぶ。	1・後	30	○			○			○	
○			人間動物関係学	動物看護師として、動物が人間社会で果たしている役割やその背景と歴史について学ぶ。	1・後	30	○			○			○	
○			統一試験対策	過去問や予想問題を解き、形態学などの基礎知識から疾患学などの応用知識を総合的に修得し、出題傾向の把握と設問に対する理解力、適切な解答を導くための知識を修得する。	1・後	30	○			○		○		
○			動物感染症学	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。	1・後	90	○			○				○
○			ビジネス・コミュニケーションⅠ	就職活動に向けて、必要な心構えや書類等の準備を重点的に行う。また自分自身を見つめなおし、将来を真剣に考える機会を設ける。	1・後	30	○			○		○		
合計				科目	1140単位時間( 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	1 5 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペット総合学科) 令和2年度 動物看護コース2年次															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			臨地実習	学内で学んだ内容が実際の動物医療現場でどのように活かされているのかを体験・実習する。また、チーム医療の現場から診療の流れ、専門職としての役割を体験する。	2・通	180			○		○				○
○			動物形態機能学Ⅱ	動物の体の構造(形態学)と仕組み(機能学)は密接な関わりがあり、これを合わせて形態機能学として細胞レベルから器官系レベルの各段階で学修することで生命維持の仕組みを理解し、他の基礎学問や臨床系科目を学修するための基礎を構築する。	2・通	60		○			○				○
○			動物臨床検査学	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、生体検査における動物の取り扱いや検体検査における検体や測定機器の正しい扱い方及び所見の記録方法を修得する。	2・通	60		○			○				○
○			動物臨床検査実習	検体検査及び生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する	2・通	90				○	○				○
○			動物薬理学	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられているか理解する。また薬物の取り扱いや保存方法を習得し、投薬量の計算ができるようになる。	2・通	60		○			○				○
○			動物外科看護学	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し安全な手術の実施に必要な知識を修得す。創傷管理および理学療法の実施に必要な知識を修得する	2・通	60		○			○				○
○			動物外科実習	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し安全な手術の実施に必要な知識を修得す。創傷管理および理学療法の実施に必要な知識を修得する	2・通	90				○	○				○
○			動物看護学概論	これまでの獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理を学び、動物看護師としての社会的責務を理解する。	2・通	60		○			○				○
○			動物臨床看護学各論	犬猫の主要な疾患の病態生理を学び、臓器ごとの機序及び機能障害や症状、検査の種類、治療法の概略を学修する。	2・通	120		○			○				○
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペット総合学科) 平成31年度 動物看護コース2年次															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			公衆衛生学	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	2・通	60		○			○			○	
○			統一試験対策	過去問や予想問題を解き、形態学などの基礎知識から疾患学などの応用知識を総合的に修得し、出題傾向の把握と設問に対する理解力、適切な解答を導くための知識を修得する。	2・通	120		○			○			○	
○			動物臨床看護学総論	動物看護を系統的・科学的に行うために必要な動物看護過程の原理と方法について学修する。動物看護管理の対象とその実践範囲について理解し、組織における良質な動物看護を提供するための知識を修得する。	2・前	30		○			○				
○			動物臨床看護学総論実習	動物看護記録の取り方、表記方法を学ぶ動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2・前	30				○	○				
○			動物医療コミュニケーション	動物病院における接遇の基礎や日常健康管理に関わる飼い主教育をロールプレイングでの実習を取り入れながら習得する	2・前	30		○			○				
○			産業動物学	産業動物の歴史や品種、その特徴と利用状況、飼養管理法、および畜産業などにおける生産物や労働力、癒しなど社会との関わりについて講義や写真、飼育現場で学ぶ。	2・後	45		○			○				
○			野生動物学	日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物との関わりについて学ぶ。	2・後	30		○			○				
○			実験動物学	実験動物の歴史や品種、飼養管理法および動物実験との関わりについて学ぶ。	2・後	15		○			○				
合計				科目	1140単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペット総合学科) 令和2年度 家庭犬トレーナーコース1年次															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			グルーミング実習Ⅰ	90分以内に爪切り、クリッピング作業、ブラッシング、耳掃除、シャンプー、ドライイング、肢周りカットを終われるような知識・技術を身につける	1・通	480				○	○		○		
○			グルーミング理論Ⅰ	犬の扱い方を理解し、各道具の使用法・注意点を把握することで、グルーミング実習時に安全でスムーズな作業が出来るようになる。	1・通	60		○			○		○		
○			家庭動物管理学	ペットショップで働くために必要な動物に関連している法規や健康管理などのケアについての専門的な知識や職業倫理、ペットを扱う専門家として必要な知識、社会における動物を取り扱う者の責任と役割を理解する。	1・前	30		○			○			○	
○			動物看護基礎学	動物の健康管理に必要な知識や技術（体のつくりや各疾患の知識、正しい飼育方法など）を実際の流れに沿って紹介し、実践的な内容も解説しながら学修する。	1・前	30		○			○				
○			犬のしつけ学基礎	動物行動学の分野において犬猫の行動様式の基礎知識（例：維持行動、性行動、社会的問題行動）をテキストに沿って学習し、習得する	1・前	30		○			○				○
○			伴侶動物学	人との関わりが古くからある猫や、飼育が一般化しつつあるウサギやハムスターなどのエキゾチックアニマルと呼ばれる伴侶動物に関しても学ぶ。	1・前	60		○			○				
○			動物内科看護学	犬の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査・保定・採血・投薬・輸液などについて理解する。	1・前	30		○			○				
○			動物臨床栄養学	犬・猫の健康管理に必要な栄養の基礎知識を習得する	1・前	30		○			○				
○			繁殖学	犬猫における繁殖の基礎知識（例：雄雌性生殖器の構造の違い、発情の徴候や発情周期、遺伝学など）を学修し習得する。	1・前	30		○			○				
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペット総合学科) 令和2年度 家庭犬トレーナーコース1年次															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			犬学	犬種標準の概略を理解し、FCIで定められている犬種やJKCで決められている犬種を理解することで、各種の犬の扱いの違いを体得する。	1・前	60		○			○		○		
○			社会人基礎力	社会人としての心構え、考え方を身に付け仕事に対する価値観を醸成する。	1・前	30		○			○		○		
○			問題行動学	犬や猫の行動様式の基礎知識を学修し、動物の行動の基本原則や学習理論を通して行動に発展させるしくみ、成長に沿って学習行動の変化を理論的に理解する。	1・後	30		○			○			○	
○			トレーニング実習Ⅰ	犬のしつけの重要性の理解とともに実際に犬をトレーニングする技術を身につけるための理論を理解し習得する。	1・後	120				○	○			○	
○			ビジネス・コミュニケーションⅠ	就職活動に向けて、必要な心構えや書類等の準備を重点的に行う。また自分自身を見つめなおし、将来を真剣に考える機会を設ける。	1・後	30		○			○			○	
○			接客ロールプレイング	ペットショップやしつけ教室での電話対応、受付の対応方法を学習し、店舗でお客様に対応出来るようにする。	1・後	30			○		○			○	
○			繁殖学Ⅱ	繁殖を学ぶ心構え、血統書の意義、犬の発情と交配、出産、子犬の飼育と管理、猫の発情と交配、及び、遺伝、犬猫の遺伝性疾患、動物愛護管理法を学修する。	1・後	30		○			○			○	
合計				科目	1110単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	1 5 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペット総合学科) 令和2年度 家庭犬トレーナーコース2年次															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			猫学	猫の歴史、生態、習性を理解し、グルーミングや管理などを行う際に必要となる猫の扱い方を習得する。	2・前	30		○			○		○		
○			ドッグエステ学	飼い主様とペットのためにペットエステを施術することの必要性やメリットを学び、ペットエステとはどんなものか飼い主様に伝えられるようにする。	2・後	30		○			○		○		
○			グルーミング実習Ⅱ	1年次に習得したグルーミングの作業を反復練習をことにより確実に仕上げる事ができ、さらに時間短縮を意識しながら授業をすすめていく。	2・通	240				○	○		○		
○			問題行動学Ⅱ	問題となる行動はどのように起こるか、どのような対処をすれば良いのかを理論的に説明できることを学習する。	2・通	30		○			○			○	
○			社会人基礎力	就職活動をスムーズに進めるために必要なルールやマナーについて習得する。また、社会人になるにあたって知っておくべき一般常識を理解し、社会人として活躍できる人材を目指す。	2・前	30		○			○		○		
○			トレーニング学	犬のしつけの重要性の理解とともに実際に犬をトレーニングする技術を身につけるための理論を理解し、顧客へのアドバイスができるようになる。	2・通	60		○			○			○	
○			トレーニング実習Ⅱ	トレーニングのプランニング、顧客への接し方を含むアドバイス方法などを理解し、いぬを扱い、適正な飼養をアドバイスできる人材を育成する	2・通	360				○	○			○	
○			繁殖学・生体管理演習	犬を管理する上で必要な基礎知識に加えて、犬の繁殖の知識、及び、子犬のケア、子犬の社会化を学修する。	2・通	30			○		○			○	
○			販売学	ペットショップでの生体販売に関わる基礎知識に加え、販売に関わる業務の基礎知識を学修する。	2・通	30		○			○			○	
合計				科目	840単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。